

通学路の道路整備を



活線クラブ 矢野 康弘 議員

園部駅東口広場の整備と園部停車場線の通学路の道路整備を

府へ道路整備の要望をする **市長**

問 JR嵯峨野線京都園部間の複線電化が、平成22年春に完成する。陳情活動を始めてから41年もかかった。平成2年3月に電化が完成した時には園部駅舎を橋上化し、自由通路をつくり西口広場が完成し、西の玄関口となった。一方、東口は未改修で18年も経過すると、向河原の市営や府営住宅が建ち、更に小山住宅団地ができた。園部第二小学校へ現在、向河原団地から46人の児童が通

市長 府に積極的に要望する。駅前広場の整備も一体的に行わなければならない。**問** 複線電化に総額

207億円を投資し、南丹市も14億7千万円も負担金を出す予定である。今のままの乗客では投資効果が問われる。市の人口が減少傾向にある中で、一層の乗客増加対策が必要になる。住宅開発や工場誘致、観光開発なども必要である。また、複線化になると大変便利になるため、自動車の通勤者が駅周辺に駐車し、電車に乗り替える者も増える。こうなると現在の民営の駐車場では不足す

市長 バス交通網を整備する。吉富や八木の土地区画整理事業を進める。内林町の宅地販売や新光悦村の企業もきており人口増にむけての施策を講じる。

学校玄関の状態



南風会 村田 憲一 議員

安全安心な教育環境を

今後も安全確保に努める **市長**

問 安全・安心な教育環境について伺う。通学・通園途中での事故や事件についてであるが、当市では、問題事象は起きていないか。また、それらを未然に防ぐため、学校施設をフェンスなどで囲ったり、警備員の配置の考えはないか伺う。**市長** 現在のところ施設内や通学・通園途中での事故・事件については大きな事象は起きていない。軽微なものであっても、

問 カンボリサイクル

市長 地元・衛管・市・府と一緒に、三者協定に基づき対応していく。**問** 試験の結果がよく、

市長 不測の事象が発生している事で、三者で協議し責任を持って、三者協定の一員として全力を尽くす考えである。その事により、地元の皆様の不安を解消するよう努力していく。

佐々木市長にまちづくりを問う

一般質問

3月定例会では、12人の議員が一般質問を行いました。各議員の質問と理事者の答弁の概要は次のとおりです。(質問順に掲載)



丹政クラブ 外田 誠 議員

食の自給率の向上と地産地消の促進を!

担い手育成等の施策で努力する **市長**

問 食料自給率は世界的な構造変化がおきている。温暖化による異常気象、穀物需要の増大、食料輸入国の増加などにより、食料の争奪戦が始まっている。一方我が国の食料自給率は39%にまで低下し、農村経済はひん死の状態である。地方から農政の転換の声をあげるべきと考えるがどうか。**市長** 自給率39%は大変恐ろしい数字である。担い手育成等の施策を行

市長 最優秀賞を獲得

市長 中国産ギョウザ事件が学校給食に影響を与えている。食の安全や食育の観点から、地元産食材の利用をすす

市長 本市の給食には中国産冷凍ギョウザ等は使用していない。地元産食材の利用率は美山・日吉で約40%、八木で約30%、園部で約20%となっている。今後も地産地消に心がけたい。



日本共産党・住民協働市会議員団 高野 美好 議員

大雪に対応できる要綱の整備を

高齢世帯に限り雪下ろし補助金を **市長**

問 厳しい財政状況をふまえ、多くの事業を聖域なく見直したとされているが、誘致企業への優遇補助金は聖域におかれたままである。5力年にわたって行われる奨励措置と固定資産税収入(収入の75%は交付税から減らされる)を比べてみても、市財政を潤すものとなっていない。**市長** 住民には財政が厳しいから辛抱しろと言いつつ、企業にはいい

市長 この制度を廃止・縮小する考えはない。**問** 今年は2年ぶりの大雪となった。美山の奥地では、今も雪に覆われている。高齢者世帯では屋根の雪下ろしができない世帯も出てきている。**市長** 住民に温かい手をさしのべるために、支援措置を講じるべきであ

市長 住家の屋根の雪下ろしを自ら行うことが困難で、経済的に支援が必要な高齢者世帯に限り、業者に作業委託した経費に対して補助金を5万円を上限として交付したい。

市長 「市被害防止計画」の策定について府と調整を進めている。保護区も十分検討の上対応したい。